



2005年日本国際博覧会 アマチュア無線特別記念局 ボランティアガイド

(2005年1月30日暫定版)

社団法人日本アマチュア無線連盟

2005年日本国際博覧会アマチュア無線特別記念局実行委員会

(このガイドブックは暫定版であり、博覧会開催までに更新されることがあります)

1. はじめに

長い歴史の中で暮らしやすい環境を育んできた自然のしくみ「自然の叡智(Nature's Wisdom)」をテーマに2005年日本国際博覧会「愛・地球博」が愛知県で開催されます。社団法人日本アマチュア無線連盟は、この博覧会会場内において、アマチュア無線を通じ科学技術や情報社会の知識を広く広めることを願い、また2005年日本国際博覧会を国内外へのPRするために特別記念局8J2AI（予定）を開設します。

主な展示は、ARISSプロジェクト（国際宇宙ステーションとの交信）、D-STAR（次世代デジタル無線通信）の展示運用、アマチュア無線機の展示運用、アマチュア無線機によるインターネット接続及び閲覧、電子工作教室、科学実験教室、サッカーロボット体験教室、フィールドミーティング、総務省情報通信月間参加行事等々です。

特に、一般アマチュア局には指定されない「8J2」と、愛・地球博の愛「AI（愛）」を組み合わせた特別なコールサイン「8J2AI」（予定）をもつアマチュア無線特別記念局が電波を全世界に向けて発射することは、日本で博覧会が開催されていることを十分PRできるでしょう。

○展示場所

2005年日本国際博覧会 長久手会場

遊びと参加ゾーン内「わんパク宝島」1階東側約50m²

〒480-1101

愛知県愛知郡長久手町大字熊張（オオアザクマハリ）字茨ヶ廻間（アザイバラガバサマ）乙（オツ）1533-1

○開催期間

2005年3月25日から9月25日まで（185日間）

○開催時間

3月25日～4月25日まで：9時30分から21時30分まで（開場は20時30分まで）

4月26日～9月25日まで：9時から22時まで（開場は21時まで）

○展示物の名称

①出展者名

日本語 社団法人日本アマチュア無線連盟

英語 The Japan Amateur Radio League, Inc.

②出展者名

日本語 J.A.R.L

英語 J.A.R.L.

③出展物名称

日本語 2005年日本国際博覧会アマチュア無線特別記念局

英語 The 2005 World Exposition special commemorative amateur radio station

2. ブースについて

特別記念局のブースは、長久手会場の「遊びと参加ゾーン」の中にある「わんパク宝島」パビリオンの1階です（添付の図面参照）。2階が入口になっている建物です。

ブース内は最新の無線機が並んでいる「アマチュア無線コーナー」、各種イベントが行われる「工作コーナー」、そしてボランティアが休憩できる「休憩室」からなっています。

○お手洗い、給湯について

アマチュア無線ブース前に来客用トイレがありますので使用してください。事務室内にもトイレがありますが、通常は使用しないでください。

○休憩室の利用について

休憩室はボランティア活動の休憩に適宜使用してください。休憩室には、パソコンや機材等が置かれており、狭いので注意してください。また、給湯用にポット等が用意されることがありますが、業務終了後は必ず電源を切ってください。

3. ボランティア活動について

○ ボランティアの心構え

開催期間中には日本全国はもとより多くの国々のアマチュア無線愛好家がブースを訪れることでしよう。ボランティアの皆さんには、この記念すべき特別記念局を訪れる方々を迎えるホスト役として、活躍していただきます。ボランティアとはいえ、来場者は日本を代表するアマチュア無線家と思って来場されていますので、行動には恥かしいところのないよう、十分注意をお願いします。

なお、言語等の問題で来場者とうまく会話ができない場合であっても、きっと意思は伝わりますのでボディランゲージ等でコミュニケーションをはかってください。

○ 活動日程について

付録として博覧会開催期間中の予定表を添付しています。活動日は別途決定します。必要に応じて各自の予定を追加記入するようにしてください。（予定表の内容は変更になることもあります）

○ ボランティア活動

ボランティアの皆さんには、主に次の活動をしていただきます。

- ・ 無線局の運用補助

来場者が特別記念局を運用する際の補助を行います。具体的には受付からはじめ、ログの整理や、無線機の操作アドバイスです。各自がお持ちの無線従事者資格の範囲を超えないように気をつけてください。主にアマチュア無線コーナーで活躍いただきます。

- ・ 工作教室への補助

科学実験やラジオ製作等の工作教室で、来場者の製作活動を補助します。主に工作コーナーで活躍いただきます。

- ・ 在宅でのボランティア活動

交信ログをパソコンに入力し、QSLカードを印刷するためのデータを作成したり、カードを印刷したりします。会場に来ることなく、自宅で活躍いただきます。

また、ボランティアは2名以上のペアで活動いただきます。基本的に、成人のJARL会員をメインボランティアとしてブース内の運営を担当します。それ以外の方はサブボランティアとして、メインボランティアをサポートします。

○ 連絡方法について

ボランティアへの連絡は担当幹事があらかじめ指定する方法（連絡網を配布）で行います。また、ボランティア活動等で困ったときはそのまま放置することなく必ず担当幹事まで連絡・相談してください。

担当幹事 村井 千鶴（JO2MLC）

〒463-0006 名古屋市守山区川東山 2201

電話、FAX：052-792-2792 電子メール：jo2mlc@jarl.com

○ 入場証について

博覧会会場に入場するには、一般の方とは別の専用の入場証が必要です。後日配布します。長期間にわたるものとそうでないもので体裁が多少違う予定です。入場証はその人のみに与えられたものです。他人との貸し借りは絶対に行わないでください。

なお、この入場証は特別記念局ブースでのボランティア活動専用です。ボランティア活動時間外に他のブース等を訪れるときは入場証をはずし、別途一般の入場証を購入して使用してください。入場証を紛失した場合は必ず担当幹事まで報告してください。

○ 食事について

会場内への食べ物の持ち込みは一切禁止されています。会場内にはスタッフ専用の食堂のほか、食事をとる店が多くありますのでご利用ください。狭いながらも休憩室を食事に利用することもできます。

○ スタッフユニフォームについて

ボランティアは特別記念局ブース内で来場者がスタッフと一目でわかるユニフォームを着用していただきます。万博協会の指導もあり、ブース内では必ず着用いただき、ブース外では着用しないようにしてください。ユニフォームは次のようなものです。

- ・ 明るい緑色の特製ブレザーです。
- ・ JARLワッペンがついています。
- ・ 万博協会指定のマークもつきます。
- ・ 男性用と女性用があります。
- ・ サイズはそれぞれS、M、L、LL

ユニフォームは貸し出し用としてブース内に各種サイズを何着か用意しますのでボランティアが共用してお使いください。なお、希望される方には別途個人用として購入することもできます（申込みは2月5日まで）。このほかにも工作教室用の特製エプロンも用意する予定です。

4. 無線設備について

特別記念局の無線機は、メーカーや有志からの借り物が含まれています。取扱いは丁寧に扱ってください。また、無線機の操作は無線従事者資格の範囲内に限られていますので、特に気をつけてください。無線機に接続されたアンテナは建物2階の屋上に建設されたタワーに設置されています。距離が長いので多少の減衰があります。タワーにはローテーターがついており、アンテナを回転することができます。

特別記念局では、特に、高速データ通信、インターネットとの親和性、音声通信のデジタル化など次世代通信を実現したアマチュア無線局用のD-S-T-A-Rシステムも運用・展示します。このD-S-T-A-R無線機により、電話回線を使用しないアマチュア無線によるインターネット接続を実現し、ホームページ閲覧などのマルチメディア通信が可能です。デジタル中継は名古屋工学院専門学校のレピータJ P 2 Y G E（DV モード周波数 1290.02MHz、DD モード周波数 1290.250MHz）に合わせてインターネット中継し、関東、関西に設置されたレピータへアクセスします。

また、特別記念局には衛星通信を行うためのアンテナも用意されています。特別記念局とは別に実施が計画されているA R I S Sスクールコンタクトでもこのアンテナを使用する予定です。

アマチュア無線機以外にも特定小電力無線機を用意していますので、免許をもたない方でもアマチュア無線の疑似体験ができ、無線の世界を味わっていただけます。

無線機やアンテナについて詳しくは付録をごらんください。また、無線運用については、別途規則を定めますので、それに従って運用指導をお願いします。この他記念アワードも企画しています（付録参照）。

5. 工作コーナーの企画について

特別記念局ブースは「遊びと参加ゾーン」の中にあります。そこで、特別記念局ブース内に希望者が参加できる工作コーナーを用意します。特に小学生高学年を対象とした自由参加型のイベントで、次の内容で実施します。1回の定員は8名です。また各教室の所要時間はそれぞれ1時間程度とします。一部の教室では部品代をいただくことがあります。1日3回程度の実施を予定しています。

教室の詳細な内容をご理解いただくための講習会や教室の実施スケジュールは別途ご案内します。

○エレクトロニクス工作教室

内容が月替わりの電気電子回路工作教室を実施します。「作って遊ぼう！光制御！（暗くなるとランプが自動点灯）」、「作って遊ぼう！光通信！（光で音を伝える）」ほか、楽しい工作教室です。主に土日祝日を中心に実施し、部品代をいただく予定です。

○おもしろ科学実験工作教室

科学する心が芽生える楽しい実験教室を内容を月替わりで実施します。「作って考えよう！磁石でマイクやスピーカー！（磁石にエナメル線を巻いたコイルでマイクやスピーカーを作る）」、「作って考えよう！身の回りのもので電気！（身近にある金属を組み合わせて電気を作る）」ほかを予定しています。主に土日祝日を中心に実施し、部品代をいただく予定です。

○ラジオ製作教室

1時間ほどで完成するラジオ製作教室です。1日3回程度の実施を予定しています。平日中心で実施し、参加費は無料の予定です。

○小型サッカーロボット体験教室

大学生によるサッカーロボット体験教室です。開催日は4/24、5/29、6/26、7/31、8/28、9/11のみの予定です。簡易自律型サッカーロボットを簡単なコマンドを与えて操作し、簡単なゲームを体験します。この教室の参加費は無料の予定です。

6. ARISSについて

国際宇宙ステーション（ISS）の宇宙飛行士と地上とのアマチュア無線による通信がARISSです。

- 一般コンタクト：国際宇宙ステーションの宇宙飛行士が、実験業務の余暇時間を使用して愛・地球博会場に開設したアマチュア無線局と交信を行います。
- スクールコンタクト：宇宙飛行士と、交信を希望している小・中学生とが愛・地球博会場に開設したアマチュア無線局を使って交信を行います。この交信は、アマチュア無線の資格が無くても宇宙飛行士との交信が特別に総務省から認められるものです。中部地区では初めての試みで8月頃に実施できる予定です。参加者は公募により募集します。

7. 愛・地球博 ワールド・スタンプラリーについて

博覧会協会では、愛・地球博参加の各パビリオン等を象徴するスタンプを作成・配置し、来場者が観覧記念として自由に押印・収集できるスタンプラリーを実施します。スタンプの図柄は、各パビリオンを代表する希少動物や来場者の自然保護意識の高揚を促進するものとなっています。特別記念局ブースでもスタンプを用意します。スタンプの図柄はアマチュア無線でも行われるFOX HUNTINGにちなんで「きつね」としました。インク等の補充は万博協会が行います。

8. インターネットの利用について

特別記念局ブースには、NTT Bフレッツの光回線を敷設する予定です。この回線を使ってインターネットに接続できます。ブースからインターネットにもアクセスできますが、サーバを置き、D-S T A Rや会場の様子を画像データにしてインターネットへ発信するために使用する予定です。

9. 内線電話の利用について

特別記念局ブース内には、博覧会協会から提供される内線用電話機が1台配置されます。この電話機は博覧会会場内（長久手会場・瀬戸会場）の内線通話のみ利用でき、外線への発着信はできません。また、この電話は他のパビリオンの入館待ち時間がわかる「パビリオン入館待ち時間表示システム」と緊急時に音声通報が流れる「緊急連絡システム」の入力端末としても利用されます。

10. 博覧会協会提供のイントラネット接続用パソコンの利用について

博覧会関係者間の連絡手段の一つとして博覧会協会から貸し出されたパソコンを使う方法があります。電子メールの送受信、Webページの閲覧等が可能です。通常は実行委員会が別途用意したBフレッツのインターネット回線の使用をお勧めします。

11. 困ったときは？緊急連絡について

特別記念局ブースで困ったことが発生したら、まずはボランティア間で相談して解決を試みてください。焦ると簡単に解決できることでも見逃してしまいがちです。まずは落ち着いて行動することが大切です。無線機の取り扱いで困ったときは、まず取扱説明書を読んでください。

もしボランティアだけで解決できそうもないときは、無理せずその処理を一旦止め、次に連絡してください。火災や怪我等が発生した場合は博覧会協会の指示に従ってください。

連絡先1

山本永治（J A 2 C M E）

携帯電話：090-8187-1920

連絡先2

磯 直行（7 L 1 F F N）

携帯電話：090-7600-4477

携帯電話がつかないときは、電子メールで下記まで。

電子メール：ai-help@isotope.sccs.chukyo-u.ac.jp

12. 今後の日程について

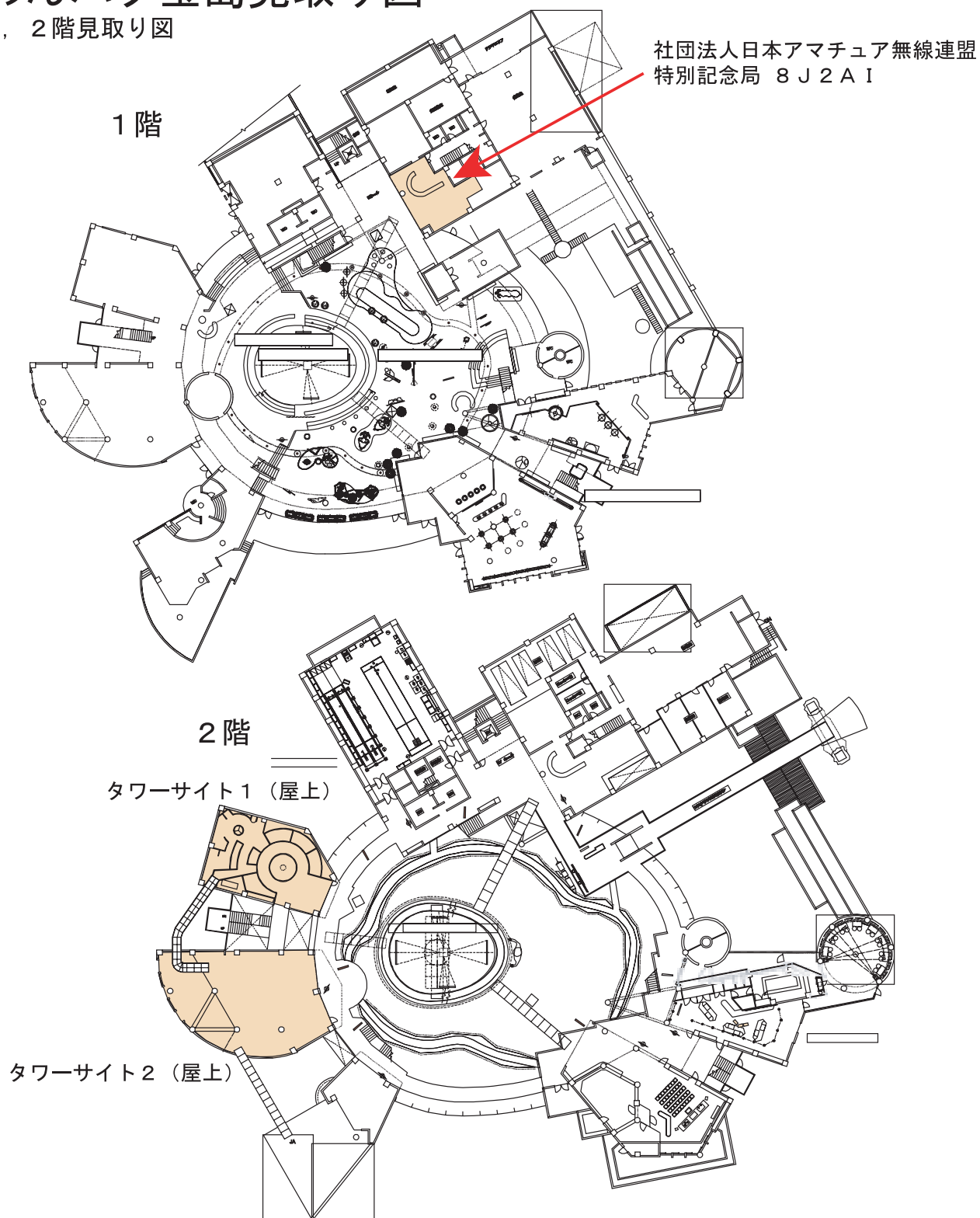
以下は博覧会開催期間前後の土日祝日のスケジュールです。今後追加されていきます。

- 2005年1月
 - 30日(日):10:00～幹事 会議、13:00～、15:00～、17:00～ボランティア会議(3回にわけて実施)、その後幹事会議
- 2005年2月
 - 5日(土):内部造作工事、アンテナ予備工事(1日目)
 - 6日(日):内部造作工事、アンテナ予備工事(2日目)
 - 11日(祝):備品設置・アンテナ建設工事(1日目)・幹事ミーティング
 - 12日(土):備品設置・アンテナ建設工事(2日目)
 - 13日(日):備品設置・アンテナ建設工事(3日目)
 - 19日(土):無線機器設置(1日目)
 - 20日(日):無線機器設置(2日目)・上級国試対策講習
 - 25日(金):幹事ミーティング
 - 26日(土):無線機器設置(3日目)
 - 27日(日):無線機器設置(4日目)
- 2005年3月
 - 5日(土):
 - 6日(日):登録クラブ代表者会議
 - 11日(金):幹事ミーティング
 - 12日(土):
 - 13日(日):
 - 19日(土):
 - 20日(祝):東海 QSO コンテスト
 - 21日(振):
 - 25日(金):開局式
 - 26日(土):
 - 27日(日):
- 2005年4月
 - 2日(土):
 - 3日(日):
 - 9日(土):
 - 10日(日):
 - 16日(土):
 - 17日(日):
 - 23日(土):
 - 24日(日):小型サッカーロボット体験教室
 - 29日(祝):(ゴールデンウィーク～5/8)
 - 30日(土):
- 2005年5月
 - 1日(日):
 - 2日(月):
 - 3日(祝):
 - 4日(振):
 - 5日(祝):
 - 6日(金):
 - 7日(土):

- 8日(日) :
- 14日(土) :
- 15日(日) :支部大会・ハムの祭典実行委員会
- 21日(土) :
- 22日(日) :
- 28日(土) :
- 29日(日) :小型サッカーロボット体験教室、JARL総会(仙台)
- 2005年6月
 - 4日(土) :
 - 5日(日) :ARIS S練習会1(13:00-16:00@名古屋大学野依記念学術交流館)
 - 11日(土) :情報通信フェア
 - 12日(日) :
 - 18日(土) :
 - 19日(日) :支部大会・ハムの祭典実行委員会、登録クラブ代表者会議
 - 25日(土) :
 - 26日(日) :ARIS S練習会2(13:00-16:00@名古屋大学野依記念学術交流館)、小型サッカーロボット体験教室
- 2005年7月
 - 2日(土) :
 - 3日(日) :東海地方本部会議
 - 9日(土) :
 - 10日(日) :第35回愛知県支部大会(名古屋市公会堂)、ARIS S練習会3(13:00-16:00@名古屋市公会堂)
 - 16日(土) :
 - 17日(日) :
 - 23日(土) :
 - 24日(日) :支部大会・ハムの祭典実行委員会、登録クラブ代表者会議
 - 30日(土) :
 - 31日(日) :ARIS S練習会4(13:00-16:00@名古屋大学農学部生命農学研究科)、小型サッカーロボット体験教室
 - 下旬～8月末日 : (子供たち夏休み)
- 2005年8月 (8月頃にARIS Sスクールコンタクト実施予定)
 - 6日(土) :
 - 7日(日) :
 - 13日(土) :
 - 14日(日) :
 - 20日(土) :ハムフェア2005(東京)(1日目)
 - 21日(日) :ハムフェア2005(東京)(2日目)
 - 27日(土) :
 - 28日(日) :小型サッカーロボット体験教室、愛知県非常通信訓練(県総合防災訓練)
- 2005年9月
 - 3日(土) :
 - 4日(日) :
 - 10日(土) :
 - 11日(日) :小型サッカーロボット体験教室
 - 17日(土) :
 - 18日(日) :
 - 19日(祝) :
 - 23日(祝) :
 - 14日(土) :
 - 25日(日) :閉局式(公開終了後)
- 2005年10月
 - 中旬頃まで :撤収・現状復帰作業

わんパク宝島見取り図

1, 2階見取り図



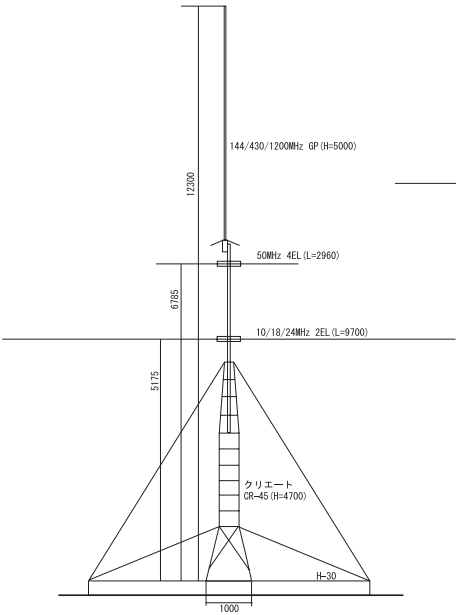
「わんパク宝島」見取り図

わんパク宝島 1 階見取図

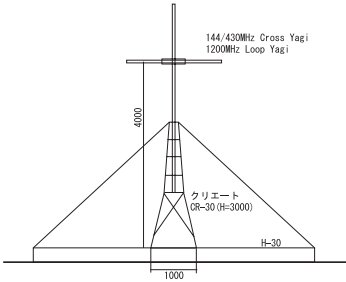
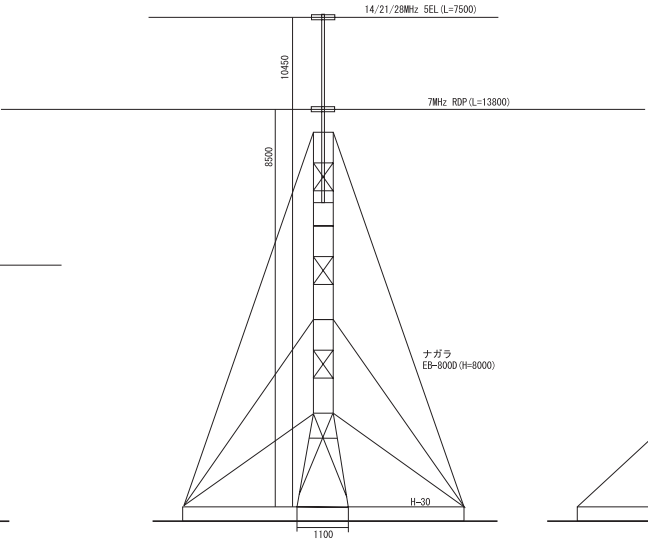


8 J 2 A I アンテナタワー設計図

タワー 1



タワー 2



●アワードの概要

2005年日本国際博覧会（略称：愛知万博、愛称：愛・地球博、公式キャラクター：モリゾー&キッコロ）開催を記念して、アマチュア無線を通じて日本国内および世界へ向けて万博開催をアピールすることを目的とし、アワードを発行します。

●アワードの発行者

2005年日本国際博覧会特別記念局実行委員会

●アワードの種類・発行枚数

○愛・地球博賞

東海地方本部管内（愛知・静岡・岐阜・三重）で運用する局と交信を行い、交信局のテールレターで「EXPO AICHI JAPAN」と綴ります。ただし、日本アマチュア無線連盟が開設する特別記念局（予定8J2AI）との交信をいずれか1文字に代用することができます。

○モリゾー&キッコロ賞

東海地方本部管内（愛知・静岡・岐阜・三重）で運用する合計10局と交信を行います。ただし、日本アマチュア無線連盟が開設する特別記念局（予定8J2AI）または開催地である愛知県内で運用する局1局を含む必要があります。

発行枚数は両賞合計で500枚限定とします。

●交信年月日

博覧会開催期間中の2005年3月25日00:00JSTから9月25日23:59JSTまでの交信を有効とします。

●注意事項

同一局との交信は、バンド・モードを問わず1回限りとします。クロスバンド、レピータによる交信は無効とします。特記事項は指定できません。

●申請方法

次の書類を下記申請先に提出してください。QSLカードを所持する必要はなく、交信のみで申請できます。

提出書類

（ア）JARL制定のアワード申請書（同形式でも可）

（イ）JARL制定のQSLカードリスト（A）（同形式でも可）

（交信のみで申請できます）

手数料

定額小為替500円（海外の方はIRC8枚）

SWLにも上記と同条件で発行します。

申請先

〒470-0391 豊田北郵便局私書箱20号

JA2RL 愛・地球博記念アワード係

●発行期間

2005年3月25日より12月20日まで

発行限定数に到達次第、受付を終了します。

●問い合わせ

SASEで申請先まで。

アワードに関する情報は特別記念局実行委員会ホームページにも掲載します。



愛・地球博 特別記念局 8J2AI 運用・管理マニュアル（案）

愛・地球博特別記念局の運用・管理は、基本的にボランティアの皆さんに頼っています。以下では、ボランティアの皆さん（以下運用管理者）が愛・地球博特別記念局 8J2AI の運用と管理を行う方法について説明します。運用中に不明なことが発生したときは、別途定める「2005 年日本国際博覧会特別記念局運用管理規程」に従い、まずボランティア間で解決を試みてください。それでも解決しない場合には、実行委員会幹事に尋ねてください。

愛・地球博特別記念局の運用・管理は、通常の特別局や特別記念局と大きく変わることはありません。ただし、次のことが違いますので気をつけてください。

- 運用者は運用しログに記録するのみで、QSLカードは記入しないこととします。これは在宅ボランティアの協力によりパソコンに交信ログを保存し、実行委員会がとりまとめて印刷してJARLビューロー経由で発送するためです。その代わり、ログ等を読みにくい文字等が一切存在しないように厳重なチェックと書き直し指導をお願いします。

なお、会場内は指定場所以外ではすべて禁煙となっていますので注意してください。

1. 特別記念局の呼称等

正式呼称は「2005 年日本国際博覧会アマチュア無線特別記念局（英文名：The 2005 World Exposition Special Commemorative Amateur Radio Station）」です。略称として「愛・地球博特別記念局」または「愛知万博特別記念局」も使用することができます。

コールサイン（識別信号、呼出符号）：8 J 2 A I（予定）

設置場所：〒480-1101 愛知県愛知郡長久手町大字熊張（オオアザクマハリ）字茨ヶ廻間（アザイパラガバサマ）乙（オツ）1533-1
JCG番号：2 0 0 0 1（愛知県愛知郡）

グリッドロケータ：PM 8 5 ME（北緯 35 度 10 分 31 秒 39、東経 137 度 04 分 55 秒 74）

2. ボランティアの集合および退場時間

ボランティアの皆さんの集合・退場時間は次の通りです。1日3人交代（早番、中番、遅番）で運営します。

集合場所・活動場所：

長久手会場 遊びと参加ゾーン内「わんぱく宝島」1階 アマチュア無線ブース

○3月25日～4月25日（公開時間：9時30分から21時30分）

	早番	中番	遅番	備考
集合時刻	9時00分	13時00分	17時00分	
引継ぎ時刻	(前日から引継ぎ)	13時15分	17時15分	前日、前番から引継ぎ
公開開始時刻	9時30分			
活動開始時刻	9時30分	13時30分	17時30分	
開場終了時刻			20時30分	公開終了1時間前
引継ぎ時刻	13時15分	17時15分	(翌日へ引継ぎ)	後番、翌日へ引継ぎ
活動終了時刻	13時30分	17時30分	21時30分	
公開終了時刻			21時30分	
退場時刻	14時00分	18時00分	22時00分	引継ぎ終了次第退場

○4月26日～9月25日（公開時間：9時00分から22時00分）

	早番	中番	遅番	備考
集合時刻	8時30分	13時00分	17時30分	
引継ぎ時刻	(前日から)	13時15分	17時45分	前日、前番から引継ぎ
公開開始時刻	9時00分			
活動開始時刻	9時30分	13時30分	18時00分	
開場終了時刻			21時00分	公開終了1時間前
引継ぎ時刻	13時15分	17時45分	(翌日へ)	後番、翌日へ引継ぎ
活動終了時刻	13時30分	18時00分	22時00分	
公開終了時刻			22時00分	
退場時刻	14時00分	18時30分	22時30分	引継ぎ終了次第退場

運用管理者の引継ぎは基本的に口頭で行います。前日または翌日との引継ぎは口頭ではできないため、「引継ぎノート」へ記入して行います。引継ぎノートに書きにくい伝達事項があるときは、次の実行委員幹事に口頭で連絡してください。

実行委員幹事

連絡先 1

山本永治 (J A 2 C M E)

携帯電話：090-8187-1920

連絡先 2

磯 直行 (7 L 1 F F N)

携帯電話：090-7600-4477

電子メールで送る場合は、ai-help@isotope.sccs.chukyo-u.ac.jp へお願いします。

3. 始業前点検

公開開始時および引継ぎ時には、無線設備の点検（始業前点検）を必ず行ってください。もし機器の不具合や業務に必要な書類が不足していることを発見したときは、実行委員幹事へ連絡し、指示を受けてください。

4. 運用者の受付

JARL 会員の運用者（以下運用者という）の受付は、次の手順で行って下さい。JARL 会員証を所持していない場合や、会員であることを証明できない場合は、後述のゲストオペレーターの方に従って受付を行ってください。

ただし、公開終了時刻の 30 分前（3 月 25 日から 4 月 25 日までは 21 時、4 月 26 日から 9 月 25 日までは 21 時 30 分）に受付を終了し、それ以降の受付は行わないでください。

(1) まず無線従事者免許証を確認します。

①アマチュア無線技士以外の無線従事者免許証を提示した場合は、相当するアマチュア無線技士の資格を別表第 1 号で確認して下さい。

②無線従事者免許証を所持していない方は受け付けしないでください。

(2) 次に JARL 会員証を確認します。

正会員、準員、家族会員のいずれかであること、および有効期限内であることを確認してください。社団の場合は、運用者が社団の代表者であることも確認してください。（社団の場合、代表者以外の構成員は会員として扱えません）

(3) 2 枚複写の JARL 制定の「JARL 局運用申込書」に記入を依頼し、記入後、原本を運用者へ渡し、写しを管理用として所定のファイルに保存します。運用周波数帯は 1 つのみ○印をつけ、複数運用する場合は申込書を分けてください。

(4) 運用希望者が多い時は、一運用者あたり 30 分に運用時間を制限することを伝えてください。

(4) JARL 制定の「局運用記録用紙」を 1 枚渡し、運用前準備を行うよう指示します。

5. 運用前準備

受付が終了したら、使用する無線設備へ案内して、次のこと行ってください。

(1) 使用する無線設備と周波数帯を指定して下さい。

①別表第 1 号及び第 2 号に基づき、使用無線設備と周波数帯を運用者に伝え、運用者が操作できる範囲の設備であるかどうかを確認してください。

②運用者が、その無線設備の操作を熟知しているか確認して下さい。

③運用者がこれを熟知していないときは、あらかじめ無線設備の取扱説明書などを使用して操作方法を説明し、理解を確認した上で運用を開始させて下さい。

④運用者が指定された無線設備の操作を理解できないときは、運用希望の申出を辞退してもらって下さい。

(2) 運用者に JARL 制定の「局運用記録用紙」の各項目に正確に記入するように伝え、「JARL 局運用申込書」および「無線従事者免許証」を机に見えるように置き、運用を開始するよう伝えてください。また、運用終了後は、「局運用記録用紙」を必ず運用管理者へ渡すよう伝えてください。

6. 運用

運用管理者は、運用者の運用の様子を見守り、次の事項を守るよう徹底して下さい。また、運用者がもし 1 枚の「局運用記録用紙」で書ききれないようであれば、適宜 1 枚ずつ追加して渡して下さい。一運用者あたり 30 分に運用時間を制限することを伝えた場合、終了 10 分前に運用者に声をかけて終了予告を行い、5 分前に終了するよう伝えてください。

(1) 博覧会特別記念局開設の趣旨を理解し、できるだけ交信局数を増やすよう心がける。

(2) 指定の識別信号「8J2AI」を使用する。

(3) オペレータがわかるように、識別信号「8J2AI」のあとに運用者の識別信号または名前を適宜送信する。

(4) 電波法および無線局運用規則、ならびに関係告示を遵守する。

- (5) 交信ごとに正確に「局運用記録用紙」に記録する。
- (6) 許可なく指定周波数帯以外の周波数帯を使用しない。(同一周波数帯における2波以上の電波の同時発射は禁止する)
- (7) 隣接する運用者(ゲストオペレータ)の邪魔にならないよう常に心がける。
- (8) 交信相手局の交信証は必要としないことを適宜送信する。('結構です' '不要です' を使い、'一方的に送る' は使わない)
- (9) 運用中に無線設備に異常を感じたときは直ちに運用を中止し、運用管理者に報告する。
- (10) 運用者は、このほか運用管理者の指示に従う。
- (11) 運用を終了する時は、「無線従事者免許証」、「JARL局運用申込書」等、忘れ物がないことを確認し、「局運用記録用紙」を運用管理者まで持参し、記入チェックを受ける。

7. 運用の終了

運用管理者が運用者から「局運用記録用紙」を受け取ったときは、次のことを行ってください。

- (1) 「局運用記録用紙」の所要事項が正しく記入されているか確認して下さい。
- (2) 「局運用記録用紙」に記入されている文字等が正しく判別できるか1交信ごとに確実にチェックして下さい。もし少しでも読みにくい文字があるときは、十分わかる文字に書き直して下さい。書き直す箇所が多い場合は、運用者に新しい「局運用記録用紙」を渡し、すべて書き直すよう指示して下さい。
英文字: 「AとH」「DとO」「VとU」「IとJ」「JとT」「LとC」「QとO」
数字: 「1とI (アイ)」「2とZ」「4とA」「5とS」「7とF」「0とO(オー)」
- (3) 未記入「局運用記録用紙」は回収して下さい。
- (4) チェック済み「局運用記録用紙」は所定のファイルに保存して下さい。
- (5) 運用管理者によるチェックが完了したら、運用者に「運用証」を1枚渡して下さい。

8. ゲストオペレータの受付

JARL 会員以外(以下ゲストオペレータという)からの運用希望の申し出があったときは、次に示す手順に従って受付を行ってください。なお、通常、特別記念局の準備から交信証の整理発送に至る一連の費用の一部として費用負担がありますが、本特別記念局では負担を求めないことにします。ただし、公開終了時刻の30分前(3月25日から4月25日までは21時、4月26日から9月25日までは21時30分)に受付を終了し、それ以降の受付は行わないでください。

- (1) まず無線従事者免許証を確認します。
 - ①アマチュア無線技士以外の無線従事者免許証を提示した場合は、相当するアマチュア無線技士の資格を別表第1号で確認して下さい。
 - ②外国のアマチュア無線技士免許証が提示されたときは、その免許証が相互認証に合意している国が発給するものであるかどうかを確認して下さい。相互認証国によるものの場合に限り運用を許可することができます(確認はアマチュア局関係告示第539号別表第1号で行います)。この場合、免許人の国籍がいずれの国であっても構いません。
 - ③! 無線従事者免許証を所持していない方は受け付けしないでください。
- (2) 次に、電波法施行規則第5条の2に従って、運用管理者の立会い(以下立会人という)の下ならば運用ができることを説明して下さい。立会人は運用管理者のいずれか1人とします。
- (3) 提示された無線従事者免許証で操作することができる無線設備および周波数帯について説明して下さい。
- (4) ゲストオペレーターに2枚複写のJARL 制定の「JARL局運用申込書」に記入を依頼します。また、立会人の氏名、無線従事者免許証番号、コールサイン等も欄外に記入します。記入後、原本を運用者へ渡し、写しを管理用として所定のファイルに保存します。運用周波数帯は1つのみ○印をつけ、複数運用する場合は申込書を分けてください。
- (5) 運用希望者が多い時は、一運用者あたり30分に運用時間を制限することを伝えてください。
- (6) JARL 制定の「局運用記録用紙」を1枚渡し、運用前準備を行うよう指示します。

9. ゲストオペレーターの運用前準備

ゲストオペレーターの受付が終了したら、使用する無線設備へ案内して、次のことを行ってください。

- (1) 立会人をゲストオペレーターに紹介する。
- (2) 操作範囲は、ゲストオペレーターの操作範囲以内であって、かつ立会人の操作範囲内である旨を説明して下さい。
- (3) 使用する無線設備と周波数帯を指定して下さい。
 - ①別表第1号及び第2号に基づき、使用無線設備と周波数帯をゲストオペレーターと立会人に伝え、操作できる範囲の設備であるかどうかを確認して下さい。
 - ②ゲストオペレーターが、その無線設備の操作を熟知しているか確認して下さい。

- ③ゲストオペレーターがこれを熟知していないときは、あらかじめ無線設備の取扱説明書などを使用して操作方法を説明し、理解を確認した上で運用を開始させて下さい。
- ④ゲストオペレーターが指定された無線設備の操作を理解できないときは、運用希望の申出を辞退してもらって下さい。
- (4) ゲストオペレーターにJARL 制定の「局運用記録用紙」の各項目に正確に記入するように伝えます。また、立会人の氏名無線従事者免許証番号、コールサイン等も記入するように伝えます。記入し終えたら「JARL局運用申込書」および「無線従事者免許証」を机に見えるように置き、運用を開始するよう伝えてください。また、運用終了後は、「局運用記録用紙」を必ず運用管理者へ渡すよう伝えてください。

10. ゲストオペレーターによる運用

運用管理者は、ゲストオペレーターの運用の様子を見守り、次の事項を守るよう徹底して下さい。また、ゲストオペレーターがもし1枚の「局運用記録用紙」で書ききれないようであれば、適宜1枚ずつ追加して渡してください。一運用者あたり30分に運用時間を制限することを伝えた場合、終了10分前に運用者に声をかけて終了予告を行い、5分前に終了するよう伝えてください。

ゲストオペレーターに次の事項を守るよう徹底して下さい。

- (1) 博覧会特別記念局開設の趣旨を理解し、できるだけ交信局数を増やすよう心がける。
- (2) 指定の識別信号「8J2AI」を使用する。
- (3) オペレータがわかるように、識別信号「8J2AI」のあとにゲストオペレーターの識別信号または名前を適宜送信する。
- (4) 電波法および無線局運用規則、ならびに関係告示を遵守する。
- (5) 交信ごとに正確に「局運用記録用紙」に記録する。
- (6) 許可なく指定周波数帯以外の周波数帯を使用しない。(同一周波数帯における2波以上の電波の同時発射は禁止する)
- (7) 隣接する運用者(ゲストオペレータ)の邪魔にならないよう常に心がける。
- (8) 交信相手局の交信証は必要としないことを適宜送信する。('結構です' '不要です')を使い、('一方的に送る')は使わない
- (9) 運用中に無線設備に異常を感じたときは直ちに運用を中止し、運用管理者に報告する。
- (10) ゲストオペレーターは、このほか立会人や運用管理者の指示に従う。
- (11) 運用を終了する時は、「無線従事者免許証」、「JARL局運用申込書」等、忘れ物がないことを確認し、「局運用記録用紙」を運用管理者まで持参し、記入チェックを受ける。

11. ゲストオペレーターによる運用の終了

運用管理者がゲストオペレーターから「局運用記録用紙」を受け取ったときは、次のことを行ってください。

- (1) 「局運用記録用紙」の所要事項が正しく記入されているか確認して下さい。
- (2) 「局運用記録用紙」に記入されている文字等が正しく判別できるか1交信ごとに確実にチェックして下さい。もし少しでも読みにくい文字があるときは、十分わかる文字に書き直して下さい。書き直す箇所が多い場合は、ゲストオペレーターに新しい「局運用記録用紙」を渡し、すべて書き直すよう指示して下さい。
英文字:「AとH」「DとO」「VとU」「IとJ」「JとT」「LとC」「QとO」
数字:「1とI(アイ)」「2とZ」「4とA」「5とS」「7とF」「0とO(オー)」
- (3) 未記入「局運用記録用紙」は回収して下さい。
- (4) チェック済み「局運用記録用紙」は所定のファイルに保存して下さい。
- (5) 運用管理者によるチェックが完了したら、ゲストオペレーターに「運用証」を1枚渡して下さい。

12. 運用予約

運用申込み者が多くブースを訪れ、運用周波数や運用順に整理が必要なとき、予約表を作成し希望者に記入してもらいます。

予約表はあらかじめ各運用バンドが30分ずつ区切られた時間割表で、先着順で運用者の識別信号(コールサイン)を記入します。

ただし、予約可能なのは当日分のみとします。翌日以降の予約はできません。予約表に識別信号を記入した者には、識別信号、運用予定時間と運用周波数が記述された予約票を手渡し、運用時間の10分前に受付に来るよう指示します。

13. 終業

8J2AI は、特別な指示が無い限り公開終了時刻の30分前(3月25日から4月25日までは21時、4月26日から9月25日までは21時30分)に受付を終了して下さい。運用終了後、直ちに運用管理者が無線設備の点検(終業後点検)を必ず行ってください。もし機器の不具合や明日以降の業務に必要な書類が不足していることを発見したときは、実行委員幹事へ連絡し、指示を受けてください。

以上

別表第 1 号

電波法施行令（平成 13 年政令第 245 号）による各級アマチュア無線技士の操作範囲

資 格	操作できるアマチュア無線局の無線設備の範囲		
	空中線電力	周波数	その他
第一級アマチュア無線技士	すべて	すべて	モールス可
第二級アマチュア無線技士	2 0 0 W以下	すべて	
第三級アマチュア無線技士	5 0 W以下	18MHz 以上、8MHz 以下	
第四級アマチュア無線技士	1 0 W以下	21MHz から 30MHz まで、 8MHz 以下	モールス不可
	2 0 W以下	30MHz 超	

次の表の左欄に掲げる資格の無線従事者は、それぞれ同表の右欄に掲げる操作を行うことができる。

資 格	操 作
第一級総合無線通信士	第一級アマチュア無線技士の操作の範囲に属する操作
第二級総合無線通信士	
第三級総合無線通信士	第二級アマチュア無線技士の操作の範囲に属する操作
第一級海上無線通信士	第四級アマチュア無線技士の操作の範囲に属する操作
第二級海上無線通信士	
第四級海上無線通信士	
航空無線通信士	

注：外国のアマチュア無線従事者免許証への対応については、ライセンスの表記例等を用意する予定です。

別表第2号

2005年日本博覧会特別記念局無線設備(予定)

無線従事者資格	無線機機器名	出力電力 (W)	備 考
第1、2級アマチュア無線技士	MARK-V FT-1000MP	200	(株)スタンダード
	TS-480HX	200	(株)ケンウッド
	IC-7800	200	アイコム(株)
	IC-756PROIII	100	
第3級アマチュア無線技士	TS-480DAT	50	(株)ケンウッド
	FT-897DM	50/20	(株)スタンダード
	IC-910D	50/10	アイコム(株)
第4級アマチュア無線技士	TS-2000VX	20/10	(株)ケンウッド
	FT-857DS	20/10	(株)スタンダード
	IC-706MKII GS	20/10	アイコム(株)
	ID-1 (2台)	10	
	ID-800 (2台)	20	

1kW リニアアンプ TL-933 (ケンウッド) が追加される予定。

(1月30日現在、無線機は変更予定されることがあります)